

常任委員会行政視察報告

文教民生委員会

視察日 10月23日～25日
 視察市 北海道千歳市、石狩市
 視察項目

- ・千歳市
- ・障がい者支援
- ・子ども未来館あいぽーと
- ・認知症対策

障がい者支援（千歳市）

千歳市が進めている障がい者支援事業の一つが、自立支援教育訓練費の助成。障害者手帳を交付されている、市民税非課税の満60歳未満の方を対象に、就労に向けた資格取得や職業能力の向上のために、教育訓練、資格取得などの受講費用の一部を助成する。助成額は受講料の40%で20万円が上限。利用実績は過去12年で10件であり、毎年ニーズがあるものではないが、有効な制度であるとし周知を強化しながら継続している。

次に点字図書、録音図書について。千歳市では昭和58年に点字図書室と録音スタジオを設置。視覚障がい者とその家族のために図書を製作、貸し出し、ボランティア人材を育成している。総蔵書数は点訳図書が約1900冊、音訳図書が約4500冊で、点訳図書はほとんどが自館制作。年間約1万冊の貸し出し件数である。

子ども未来館あいぽーと（石狩市）

子供たちの健全育成に関する総合的な機能を持つ大型児童館。その実質的な機能は児童館、放課後児童クラブ、子育て支援センターであるが、特徴的なのが0歳から小学生までではなく、中・高生の居場所づくり対策として18歳までの子供が自由に来館し

利用できる点である。遊技場、創作活動室、調理室、本・PCコーナーだけでなく、中・高生のダンス・バンドグループ向けに防音・音響設備のあるスタジオも設置。異年齢の子供が利用するとトラブルがないわけでもないし、安全対策も求められる。そこで小学3年生から高校生で構成される「子ども会議」を実施し、当事者である子供たちが施設の行事やルールの検討を行い、自分で考え行動し自治できる子供の育成も図る。指定管理で運営しているNPO法人は、10代のベビシッター講座などさまざまな企画を実施し、幅広い年代の子供が利用・交流してにぎわう、地域に欠かせない子育て・児童育成の一大拠点施設となっている。

認知症対策（石狩市）

能代市でも同様の事業を行っているが、石狩市では徘徊見守りSOSネットワークという、徘徊者により速やかに搜索するための市独自の体制を構築。認知症サポーターの養成に力を入れ、SOSサポーター登録している87機関と連携し、地域一帯となつて徘徊対策を進める。

また徘徊認知症高齢者検索機器の貸与事業も実施（当市では機器購入費の補助）。ちなみに認知症サポーターの養成数は累計約4000人で、石狩市と能代市の人口は同規模だが、サポーター数は人口の10%に近づいている。

（落合康友）



議長の交際費を公開します《10月～12月分》

- ・能代市立竹生小学校思い出を語る会…………… 5,000円
- ・きみまちの里フェスティバルマラソン歓迎レセプション…………… 5,000円
- ・第38期女流本因坊戦前夜祭…………… 6,000円
- ・能代商工会議所臨時議員総会懇親会…………… 7,000円
- ・大館能代空港利用促進協議会企業ファンクラブの集い…………… 5,000円
- ・令和元年度「関東能代会」の集い 総会・懇親会…………… 8,000円
- ・元市議 故 竹内宏氏の葬儀・法要…………… 20,000円

※詳しくは本庁舎1階の行政情報コーナーで閲覧できます。
 ※議長交際費は「能代市長の交際費に関する規定」に準じて支出しております。

意見書の提出

今定例会では、3件の意見書を可決し、関係行政庁へ提出しました。

◆ケアプラン有料化などの制度見直しの中、介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険の抜本的改善を求める意見書

◆医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書

◆深刻な医師不足、高齢化の進行、公共交通機関の衰退など地方における公立・公的病院の置かれている医療事情の状況把握を欠いたまま、国の基準に基づき一方的な再編・統合は行わないことを求める意見書